

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【第二東中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全国学力・学習状況調査においては、学力向上目標に対して一定の成果がみられた。次年度も「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を継続して活用し、基礎・基本の定着や、個に応じた学習が行えるようにしていく。	
思考・判断・表現	次年度も各教科の授業において、発表する場面をより多く設定していく。生徒が主体的に表現等を行えるように、ICT機器の活用も積極的に行う。教科のみならず、特別活動や総合的な学習の時間、特別の教科道徳においても積極的にICT機器を活用した情報共有や発表場面を取り入れる。教員間において、ICT機器の活用方法、実践事例の共有を行っていく。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況について、偏りがみられる。</p> <p><指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能について、反復練習する時間を十分に確保できていない。</p>	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む【毎週木曜日の朝に実施】。また、PCを毎日持ち帰ることで、家庭学習においても「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等に取り組めるようにする。【毎日】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 学校生活において、自分の考えを表現することに課題がみられる。</p> <p><指導上の課題> 生徒が発表する場面の設定が十分になされていない。</p>	⇒ 各教科の授業において、発表する場面の設定をより多くする。また、積極的にICT機器を活用することで、生徒が主体的に発表を行えるようにする【単元ごとに発表を実施】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む時間を木曜日の朝に継続的に実施することができた。
思考・判断・表現	B	各教科の授業において、発表する場面の設定をすることができた。また、生徒が主体的に発表を行えるように、ICT機器を活用することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「情報の扱い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」において、全国平均の値を上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、特に「文中での語句の位置」を捉える問題や「表現技法」の問題に課題がみられた。数学では、すべての項目で全国平均の値を上回ったが、「図形」において課題がみられた。	
思考・判断・表現	国語、数学ともに思考・判断・表現において、全国平均の値を上回った。しかし、国語の「書くこと」や数学の「記述式」の項目で課題がみられた。国語、数学に限らず、すべての教科において、書く活動を充実させていきたい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	同一集団での経年比較により、国語、数学、社会の知識・技能の改善が見られた。どの教科においても、系統性でつながりのある内容について、既習事項を確認したり、繰り返し学習したりすることにより、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切に、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。	
思考・判断・表現	同一集団での経年比較により、国語、数学、理科の思考・判断・表現の改善が見られた。各教科の授業において、発表する場面をより多く設定した成果であると考えられる。今後も考えを言葉で伝える活動に重きを置いていく。教科等横断的に複数の情報の中から必要な情報を見つける活動や、異なる考えをもった人と協議して解決策を見出す活動に取り組み、思考・判断・表現の力を高めていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む時間を木曜日の朝に継続的に実施することができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科の授業において、発表する場面の設定をすることができた。また、生徒が主体的に発表を行えるように、ICT機器を活用することができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)